

## 平成23年度共同利用実施報告書(研究実績報告書)

## 1. 共同利用種目 (該当種目にチェック)

- 特定共同研究(A)     特定共同研究(B)     特定共同研究(C)     一般共同研究  
 地震・火山噴火予知研究     施設・実験装置・観測機器等の利用  
 データ・資料等の利用     研究集会

2. 課題番号または共同利用コード 2011 - A - 01 (1406)

## 3. プロジェクト名、研究課題、集会名、または利用施設・装置・機器・データ等の名称

和文：地震発生予測のための地震活動評価手法の基盤構築英文：Development of infrastructure for earthquake forecast system based on statistical seismology4. 研究代表者所属・氏名 東京大学地震研究所・鶴岡 弘(地震研究所担当教員名) 鶴岡 弘

## 5. 利用者・参加者の詳細 (研究代表者を含む。必要に応じ行を追加すること)

氏名	所属・職名	利用・参加内容または 施設,装置,機器,データ	利用・参加期間	日 数	旅費 支給
岡田 正実	気象研究所・客員	研究集会参加	7/12-13	2	無

## 6. 研究内容 (コンマ区切りで3つ以上のキーワードおよび400字程度の成果概要を記入)

キーワード：地震発生予測, プロスペクティブ, CSEP

1日予測テストクラスを92ラウンド, 3ヶ月予測テストクラスを7ラウンド, 1年予測テストクラスに対して3ラウンドの検証結果を得るとともに, 平成22年7月12-13日にかけて気象研究所において研究集会「地震活動の評価に基づく地震発生予測システム: 標準予測モデル構築へ向けて(2)」を開催した.

1日予測テストクラスについては, 92ラウンド(2009/11/1-2010/1/31)を実施した. 実施期間中に, AllJapanでは, 62ラウンド, Mainlandでは9ラウンド, Kantoでは, 7ラウンドで地震が発生した. 実験期間のほぼ中程で伊豆地方で群発地震があった. 1日予測テストクラスの結果において, 地震が発生しなかったラウンドでは, すべてのモデルがテストをパスするということがわかった. このことはつまり地震が発生していない時には, モデル間の比較が十分にできないことを意味する.

7. 研究実績報告 (公表された成果のリスト\*<sup>1</sup>または2000~3000字の報告書)(\*<sup>1</sup>論文タイトル, 雑誌・学会・セミナー等の名称, 謝辞への記載の有無, ポイント数, 電子ファイル添付のこと)

N.Hirata, H.Tsuruoka, K.Z.Nanjo, S.Yokoi,

Overview of Japanese CSEP Testing Center and its performance for the Earthquake Forecast Testing Experiment, IUGG, June 2011, Australia, Melbourne.

H.Tsuruoka, K.Z.Nanjo, S.Yokoi, N.Hirata,

Japanese CSEP Testing Center of Collaboratory for the Study of Earthquake Predictability, IUGG, June 2011, Australia, Melbourne.

S.Yokoi, H.Tsuruoka, N.Hirata, D. Schorlemmer, F.Eucher, M.Liukis, K.Z.Nanjo, T.H.Jordan

Report on prospective evaluation of the 3-month and 1-year classes earthquake forecasts in Japan, IUGG, June 2011, Australia, Melbourne.